

若年者の就業と社会生活行動に関する実証分析

明海大学経済学部 伊藤 伸介[†]

論文要旨

わが国では、近年、若年層の不安定就業化や無業化に対する社会的な関心が高まっている。若年層の不安定就業化および無業化は、個人がおかれた社会経済的環境によって多様な様相を呈していることから、若年者の社会経済的属性と就業行動との関連性を明らかにするマイクロレベルの実証分析がこれまで数多く行われてきた。また、マイクロデータを利用して若年層を社会経済的属性に即して類型化し、各類型における特徴を細密に把握する研究も存在する。一方、若年者の就業と社会生活行動との関連性を追究するために、若年の不安定就業者層と無業者層における生活活動状況を明らかにすることが考えられるが、それに関する実証分析は数少ないように思われる。そこで、本稿は、『社会生活基本調査』（平成8年、13年）のマイクロデータを用いて、最初に、若年のフリーター層や無業者層を社会生活行動に対する意欲の有無の観点からコアとなる階層とその周辺に位置付けられる階層に類型化し、つぎに、各類型について社会生活行動の特徴を追究した。本分析結果からは、第1に、学習・研究活動やボランティア活動に対して消極的なコア階層は、周辺階層と比較して社会生活行動の積極性に乏しいこと、第2に、コア階層においては、社会的なネットワークの形成に対しても非活動的な反応を示すことがわかった。

キーワード：マイクロデータ分析，若年フリーター層，若年無業者層，社会生活基本調査

[†]279-8550 千葉県浦安市明海1, E-mail:ssitoh@meikai.ac.jp